

3. 北関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	一般レストラン（経営者）	・残暑が続く限り、来期も今期同様、県外客の動きに期待できる。
	やや良くなる	一般小売店〔家電〕（経営者）	・太陽光発電やリフォーム等の物件の成約が少しずつ出てきているため、少しは明るくなる。
		乗用車販売店（経営者）	・10月から11月にかけて数車種のマイナーチェンジや新型車の追加を予定しているため、やや良くなる。
		観光型ホテル（営業担当）	・旅行計画の間際化が顕著に見られ、数日前に突然予約が増える傾向にある。特にインターネット予約は堅調な伸びを示し、紅葉の季節を控え、予約はほぼ前年並みに推移している。
		旅行代理店（所長）	・企業需要が鈍い状態であるが、秋季には、春に予定し延期していた旅行の実施が期待される。
		遊園地（職員）	・東日本大震災から約5か月が経過したレジャー、サービス業界は徐々に回復傾向にあり、今後2～3か月先は今年よりも回復傾向に向かう。
		その他サービス〔立体駐車場〕（従業員）	・放射線関係の騒ぎがまだ続いているが、来客数は横ばいで順調に保たれている。単価は上昇の気配が感じられ、各テナントの販売量が増加しているため、やや良くなる。
		住宅販売会社（従業員）	・高齢層を中心とした都会からの移住指向の高まりにより、別荘需要が増加すると予想される。
		住宅販売会社（従業員）	・円高傾向で輸出産業は難しい局面を迎えるが、一方で輸入材の価格下落が景気をけん引する可能性が高い。
	変わらない	商店街（代表者）	・景気は東日本大震災前に戻っているが、秋の収穫シーズンは今後の天候に左右されるので、先行きが読めない。
		商店街（代表者）	・急に良くなるという要因は何もない。厳しい毎日が続きそうである。
		商店街（代表者）	・2学期に入り学校が始まると、運動会等の用品が動き始める。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	・郊外や大型店の中に外国の安売り店が開店したため、購買がどう変わるか見通しが難しい。商店街の納涼セールも今年はマンネリで効果がなく、地元は何か考えなければならないが、それも考えつかない。現状維持がやっとなのである。これでは景気の浮揚は考えられない。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・消費が冷めていても必要な物は購入する。しかし、新規客の獲得が厳しい分、売上増は難しい。
		百貨店（営業担当）	・秋物の動きが活発になる見込みが少ない。
		百貨店（営業担当）	・円高など経済状況の中に景気の先行き不安な部分があるので、消費はそれほど上向き感じがしない。
		百貨店（販売促進担当）	・極めて狭い範囲では、売れ筋、ヒット商品が出ているが、全体への大きな流れには至らない。消費行動を阻害する要因が払しょくされないため、当分状況は変わらない。
		百貨店（販売促進担当）	・業界の休日分散により、前月に引き続き平日の売上が顕著に増加している。しかし、消費者の節約志向は依然変わらず、不要不急なものを買わない堅実な買物動向が続いている。今後は、前年のように残暑が長引くと秋物が動かない状況に陥り、気温の変化が今後の売上動向を握っていると考えている。
		百貨店（店長）	・東日本大震災後、消費マインドは回復しているが、経済環境はますます不透明感を増しているため、今後を見通すことは更に難しくなっている。
スーパー（経営者）		・福島第一原子力発電所の問題や東日本大震災からの復旧速度が遅いため、景気の浮揚には時間が掛かる。また、円高により景気ムードが落ちている。	
スーパー（店長）	・東日本大震災による特需が収まり、円高による原価の引下げが出てくる。販売価格にすぐに反映されないが、購買活動は活性化される。		
スーパー（総務担当）	・小売業は天候に左右される部分が非常に大きく、今後3か月の天候次第で売れる物が変わり、かなり数字が違ってくるため、何とも言えない。景気全体は、まだ本当に良いとはいえない状況なので、現状維持である。		
スーパー（統括）	・秋物は順調に滑り出しているが、残暑や台風など天候与件による農産物の価格変動が懸念される。小麦などの原料高も販売価格上昇の懸念材料である。		
コンビニ（経営者）	・期待する材料がないため、状況は変わらない。		

コンビニ（店長）	・客が必要な物は買い、不要な物は買わないという状況であり、当店のようなコンビニにとって、普段の生活が大きく変わらない限り、特別な変化はない。
衣料品専門店（経営者）	・輸出関連産業が立ち直り、コンビニ業界や百貨店が活況を取り戻している。しかし、福島第一原子力発電所問題の影響は簡単に払しょくできないため、変わっていない。
衣料品専門店（経営者）	・客が物を買うことを怖がっているような感じで、街や商店街に出てくることさえも避け、なかなか買物をしない傾向にある。イベントには出ても金は使わない状態にある。
衣料品専門店（店長）	・東日本大震災後、売上は何とか戻りつつあるが、円高や株価の低迷が続く限り、悪い状況は変わらない。
衣料品専門店（統括）	・東日本大震災から半年経つが、客の気持ちになかなか上向かず、買物に行こうという気持ちが起きていない。猛暑の影響で街に人が出てこないことなど、売上に結び付く要素がない。
衣料品専門店（販売担当）	・節約疲れで幾分か買物に走る時期もあったが、東日本大震災直後の不安とはまた違い、その後は、社会環境あるいは社会保障といったインフラの部分で安心感が持てないという先行き不安が大きな要素を占めている。そのような状況に自然現象が重なったことで、不安な日々を送っている人たちは消費に目が向かないため、変わらない。
乗用車販売店（従業員）	・政治、経済の不透明な中、様子見の状況が続き、販売量の増加は見込めない。
乗用車販売店（販売担当）	・今後2～3か月の間で、よほどの景気刺激策でもあって観光地が潤うようなことがあれば別だが、今現在、当県は風評被害が少し残っており、観光客もまだ元の数に戻っていない。そのため、ホテルマンなどにほとんど車を買ってもらえない状況なので、2～3か月先もこの悪い状態のまま変わらない。
乗用車販売店（販売担当）	・ここ最近、売れる月と売れない月が交互に来ており、今までのように大幅な動きはない。悪い状態がずっと続いているので、先行きは変わらない。
乗用車販売店（営業担当）	・単価は安いが、軽自動車を中心に商談が少し出てきている。薄利多売に期待している。
自動車備品販売店（経営者）	・周辺の工場等では仕事が少なく、工場移転の話なども多い。来店する客も警戒心が強く、購買にあまり結び付かない。しかし、当店としては同じ状態に持っていこう、何とか販売量を増やそうと努力している。
住関連専門店（統括）	・円高、株価、政局が安定しないことや、福島第一原子力発電所に端を発する放射線問題への政府の指針及び方向性が明確に打ち出されないことには、消費に対する不信任は払しょくできず、消費拡大へつながらない。
一般レストラン（経営者）	・12月になるまで宴会や集会があまりないので、回復は望めない。
一般レストラン（経営者）	・東日本大震災以後、消費が低迷し、異業種間での話でも経済状況は決して良い方向に行っていない。むしろ悪くなっており、その状態が続いている。
旅行代理店（副支店長）	・余暇産業へ回ってくる余裕がまだ消費者から感じられないため、状況は変わらない。
通信会社（販売担当）	・円高や株価の下落などで先行きが不透明なため、状況が変わるかどうか分からない。そのため、消費に対して積極的にならない。
通信会社（営業担当）	・マスコミの言う節約効果が大きく影響し、消費することに慎重になっている。
通信会社（総務担当）	・景気の先行きが、いまだ不透明である。
通信会社（局長）	・景気回復につながる材料がなく、期待感が全くない。
通信会社（営業担当）	・消費を促す要因が見当たらない。8月の出費が増えた分を抑える傾向にあるため、変わらない。
テーマパーク（職員）	・良くなりつつも、不安定な状況が続いている。
ゴルフ場（副支配人）	・急激な円高などの関係で、景気全体が下向している。ゴルフ場には直接的な影響はないが、やはり、来客数の動きは微妙に変わってくる。
その他レジャー施設 [アミューズメント] （店長）	・ゲーム用の人気キャラクター景品の話題が落ち着いており、相乗効果での来店動機が見込みづらくなっている。しかし、夏季節電営業が終了して通常に戻ること、当店の主要客層のファミリー客の土日来店が期待できるため、状況は変わらない。
設計事務所（経営者）	・今月の状況をみると、まだ安定して仕事が増えることは期待できない。

	設計事務所（所長）	・被災地の復興が軌道に乗る等、何かきっかけがあれば、波及効果に期待したい。しばらくは今とあまり変わらない状態で推移する。
	設計事務所（所長）	・最近、計画件数が少ないのに競合が多いため、なかなか受注に結び付かない。来月決算イベントを行うので、集客につなげたい。
やや悪くなる	一般小売店〔乳業〕（経営者）	・業界全体では良くも悪くもならないと思われるが、当地域では百貨店の撤退など消費意欲の減退要因となる事柄が続くので、消費の落ち込みが少し懸念される。
	百貨店（営業担当）	・不安定な社会情勢や円高による企業収益に与える影響が、消費行動にマイナスに作用すると予想されるため、やや悪くなる。
	百貨店（営業担当）	・円高や金の値上がり、株価の値下がり、政治が安定しないことなど、いろいろな状況からなかなか消費動向は出てこない。
	スーパー（総務担当）	・食品の放射能汚染問題による消費低迷、円高による輸出産業の低迷、政策の不透明感など、客の生活に直接関わることが多いため、収入の減少、節約志向の高まりにつながっている。
	スーパー（経営企画担当）	・内部要因が大きいですが、客数、買上点数の改善には時間が掛かる。
	コンビニ（経営者）	・夏休みが終わり人の動きが元に戻ってくることや、秋のイベント等が夏よりも少なくなることから客数が減り、やや悪くなる。
	コンビニ（経営者）	・コンビニの宿命というか季節的なもので、夏がある程度ピークなので、これから秋口に入るとやや下がってしまうという事は否めない。また、前年は9月にたばこの値上げによる仮需要が起こったが、今年はその分がなくなってしまうということも含めて、非常に厳しい予想をしている。
	コンビニ（経営者）	・東日本大震災以来、物資をなかなか供給できなかったが、最近は供給できるようになった。しかし、この猛暑で非常に上がってきた売上は、今後は天候が不安定なため、減少していく。
	住関連専門店（仕入担当）	・暖房関連の売上は、今夏の冷房ほどは上積みを期待できない。また、これまで順調であった資材等住宅関連品の売行きもピークを過ぎ、9月以降厳しい状況が予測される。自動車関連企業の休日変更により土日の売上減も継続する。
	高級レストラン（店長）	・2～3か月先の予約状況を見ても最悪の状態である。年末にかけ、東日本大震災からの復興により多少景気が上向くかもしれないが、中小企業、零細企業の多い当県にはあまり関係ない。
	都市型ホテル（経営者）	・円高、米国の不景気などの影響で、自動車産業の街には明るさが見えない。
	都市型ホテル（支配人）	・茨城空港の海外からの定期便はまだ復興していない。アジアからのインバウンドも今年中は全てキャンセルとなっている。通常の観光客の激減が今後も予想され、福島第一原子力発電所の問題が収束しない間は戻ってくる気配がない。
	旅行代理店（従業員）	・円高が続くようなので、更に悪くなる。
	旅行代理店（副支店長）	・受注は増えてきているがあくまでも上期に失った分であり、むしろ前年の秋に行った旅行が中止になり始めている。また、長期予報では天候があまり良くないことから農業従事者の旅行意識が下がってきている。
タクシー（経営者）	・昼も夜も動きが悪く、この状態では先行き良くない。	
通信会社（経営者）	・とにかく物が売れない。消費者もデフレに慣れてしまっているため、少々の安売りでは反応しなくなっている。経済不安に政情不安、東日本大震災以降、財布のひもが更に固くなっている。	
ゴルフ場（支配人）	・円高の影響で大企業の生産が停滞し、地元中小企業が単価上昇分を負わされることになるため、中小企業の来場者が減少している。	
設計事務所（所長）	・先行きへの不安から新規事業を中止した客もおり、しばらくは経済的に縮小傾向にある。	
悪くなる	商店街（代表者）	・家庭や商店の被災後の復旧工事が進んでおり、その工事費用が掛かる分、生活費を切り詰めている様子である。
	一般小売店〔青果〕（店長）	・東日本大震災で壊れた屋根や壁の工事がこれから進むため、数百万円ぐらいの出費になる家庭が多く、必要な物以外は買わないという傾向が強くなる。
	コンビニ（店長）	・全体的な景気の動向とは関係なく、近隣商圏内にできた同一チェーンの新店舗の影響をまともに受けるため、かなり悪くなる。

		家電量販店 (店長)	・テレビの先取り分を補う商品群が出てこない、当分の間厳しい。
		スナック (経営者)	・良くなる要素が全然見当たらない。毎日が不安な状態である。
		住宅販売会社 (経営者)	・東日本大震災後の景気悪化が明確になってくる時期で、更に円高株安で余計に輸出産業に影響が出て、世の中全体に不景気感が漂う印象がある。特に影響が大きい不動産関連は、高額なために買い控えが出てくることや地価が下がることも予想される。よって悪くなる可能性が大きい。
企業動向関連	良くなる	一般機械器具製造業 (経営者)	・特に自動車分野において、東日本大震災の影響による遅れを取り戻すため、増産の動きが本格化する。
		輸送用機械器具製造業 (総務担当)	・主力自動車メーカーの3か月インフォメーションによると、現在増加基調に入っており、9月はまだ節電の影響もあり前年比100%程度、10月以降は120%で推移するとの情報である。電気不足の問題で困っているため、今後は早く電力制限を解除して欲しい。
	やや良くなる	金融業 (役員)	・東日本大震災以降低迷していた外食関係にも活発な動きがみられ、売上の増加等が見受けられる。
		金融業 (経営企画担当)	・復興需要や観光地に外国人観光客が戻りつつある。
		社会保険労務士	・円高の影響が気になるが、東日本大震災後落ち込んだ分、ある程度の水準までは回復に向かう。
変わらない		食料品製造業 (経営者)	・思ったよりも悪くもなく良くもない状況が続いているので、2～3か月は現状維持になる。
		窯業・土石製品製造業 (経営者)	・夏休みの繁忙は一時的な要因で、今後秋口にかけては、年末商品の受注はいくらか予想されるものの、受注、販売共に厳しい状態に変わりはない。
		金属製品製造業 (経営者)	・先月あたりから、特装車両である建設機械やミキサー車でようやく復興需要が開始、受注が増えてきている。
		金属製品製造業 (経営者)	・景気が一番悪い時よりは良いが、今後受注価格など厳しくなるというので楽観できない。材料関係で小規模のところは廃業しているため、材料の仕入れも心配である。また、仕事の金額が安くなり、外注で海外に流れてしまうという心配もある。
		一般機械器具製造業 (経営者)	・ここ2～3か月は受注量に変化がないので、変わらない。
		電気機械器具製造業 (経営者)	・今ある仕事は東日本大震災での臨時受注による仕事量の増加なので、3か月先の状況はまだ予測できない。
		電気機械器具製造業 (経営者)	・自動車と住宅関連の受注はおそらく増えるが、それ以外の役所関連の仕事がほとんどなくなっているため、売上は現状と変わらないか、やや落ちていく。どう動くか全然先が見えないので、先行きが不安である。
		電気機械器具製造業 (経営者)	・当分安定した受注が入っている。今年一杯はこの状況が続くようである。
		電気機械器具製造業 (営業担当)	・現在の円高傾向によって、設備投資の計画中止や縮小、見直し等、かなり影響が出てくる。
		輸送用機械器具製造業 (経営者)	・取引先10数社の半分以上はそれなりに受注量、販売量があるので、2～3か月は売上に変化はない。
		その他製造業 [環境機器] (経営者)	・行政向けのライター処理装置等は3月末に集中するため、ここ3か月は受注決定の動きがない。今年は厳しいから来年、との話をよく聞くので、良くても横ばいである。
		輸送業 (営業担当)	・現状の円高により食品や雑貨の輸入商材等の物量、車両依頼も多い状態であるが、運賃単価自体はデフレの状況からいまだに上がらず、少し厳しい状況である。また、今後も節約ということで石油ストーブや湯たんぼ、毛布等の受注量が増加し、車両依頼も増えているが、運賃単価の見直し等も続いているので厳しい状態が続く。
		通信業 (経営者)	・景気が良くなる要素が見当たらない。
		金融業 (調査担当)	・海外景気の鈍化や為替動向が懸念される。
		不動産業 (管理担当)	・今後も維持管理費の引き締めが続き、更に光熱費が掛からない時期に入り削減幅も少なくなるため、先行きは変わらない。
		広告代理店 (営業担当)	・良くなる材料がない。
		新聞販売店 [広告] (総務担当)	・ホームセンターの改装工事が始まり、来月以降、秋の商戦に力が入る一方、閉店するガソリンスタンドが2店舗あり、今後の業界の動向が注目される。
		経営コンサルタント	・落ち込んだ消費マインドが改善し、企業業績に反映されるようになるには、東日本大震災の本格的復興が見えてこなければならない。

		司法書士	・先を見越した事業の相談等がないので、やはりこのままの状況が続く。
やや悪くなる		食料品製造業（営業統括）	・高速道路の通行料の見直しや、為替が1ドル76円台に固定してしまっていることから、安い海外ワインに押され、国産ワインはますます苦戦を強いられる。
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・3月より25～30%上がっている地金とダイヤの価格の高騰のため、秋口用のサンプルを作成しても受注できる金額が定まらず困っている。通常秋口は涼しくなりジュエリーが動く時期だが、これらの要因で思い切った新作の作り込みが出来ないため、前年より悪化しそうである。
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	・復興施策の遅れや円高により、外部環境が悪くなっている。情報化投資の足踏み状態が当分続く。
悪くなる		食料品製造業（製造担当）	・食品の放射能汚染問題で、今年の穀物単価が上昇している。大手は単価に関係なく数量確保に出てきているため、中小零細企業の状況はますます厳しくなる。また、デフレが更に進むとコストが上昇し、経営困難な状態に追い込まれる。
		化学工業（経営者）	・秋口の受注が入ってくる気配が全くないうえに、仕入れ原材料の値上げを通告されており、更に業績が悪くなる可能性が大きい。
		建設業（総務担当）	・東日本大震災の影響による工期延長で入金が遅れがちになっている。金融機関の新規融資に問題があり、資金繰りに苦慮している。
雇用関連	良くなる	人材派遣会社（経営者）	・9月から大きな仕事をやる予定なので、当社としては良くなる。
		人材派遣会社（管理担当）	・自動車関連の派遣の仕事が引き続き増加する予定である。
やや良くなる		人材派遣会社（経営者）	・中小企業等での生産量の工夫なのか、自動車関連では電子関連や部品関係に期待を含めた生産稼働の伸びが見られる。秋冬物衣料も今後への期待をもたせた販売の工夫を展開している。少しずつではあるが持ち直しの動きがある。
		職業安定所（職員）	・秋にかけて、時期的な仕事と自動車関係の会社が忙しくなっている様子があり、若干上向く。
変わらない		求人情報誌製作会社（経営者）	・周辺には工業や自動車関連企業が多く、円高が進むことで企業収益が落ち込むため、今後の雇用に対する先行きは不透明である。
		職業安定所（職員）	・企業も先行きがどうなるかよく分からず、様子見の状態がずっと続いている。
		職業安定所（職員）	・円高等の経済動向の不安要素が少しでも解消されていかないと、企業側の採用意欲が高まらず、求職者が求めているような求人が増えてこない。
		職業安定所（職員）	・求人数はやや多くなってきていると思うが、復興関連の建設関係の求人が非常に目立っている状況でそれ以外の職種が特に多くなっているということではない。また、引き続き風評被害などの影響もあり、サービス関連の求人が非常に悪いので、先行き好転するとは考えられない。
		民間職業紹介機関（経営者）	・求人をけん引する製造業で異常な円高による海外シフトが勢いを増しているため、東日本大震災後の受注回復傾向に新規採用者数が連動していない。
やや悪くなる		職業安定所（職員）	・円高の影響により、生産を海外へ移行する事業所が雇用調整を実施する動きがあるため、やや悪くなる。
悪くなる		○	○